「JBA15 歳以下でのマンツーマンディフェンス推進について」の導入準備資料における対応

平成２７(2015)年９月１２日
日本ミニバスケットボール連盟

【JBA 導入準備資料→対応】

Ｐ１　前提　→そのまま
Ｐ２　マンツーマンディフェンス推進の趣旨　→そのまま
Ｐ３　マンツーマンディフェンスの効果　→そのまま
Ｐ４　マンツーマンディフェンスを推進する背景→1 部変更要請

【JBA 資料】

・日本では、12歳以下（U-12)のチームの９０％がゾーンディフェンスを導入しており、～

【変更要請内容】

・日本では、12歳以下（U-12)のチームの多くがゾーンディフェンスを導入しており、～

Ｐ５　導入のための各種取組み①　→そのまま
Ｐ６　導入のための各種取組み②　→1 部変更要請

【JBA 資料】

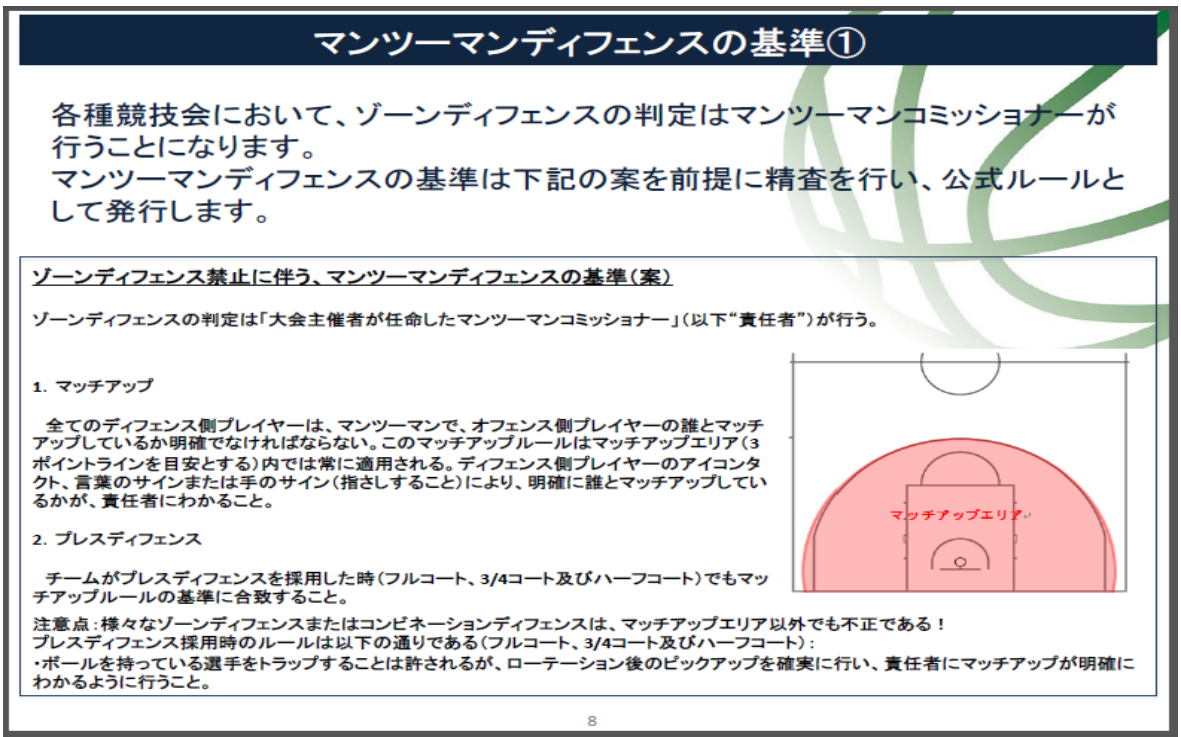
●ミニバスケットボール競技規則の見直し
－FIBAルール（国際競技規則）則ったルールへの改定
－日本オリジナルルールの見直し
（4校制限、10選手起用等）

【変更要請内容】

●ミニバスケットボール競技規則の見直し検討
－FIBAルール（国際競技規則）則ったルールへの改定検討
－日本オリジナルルールの検証及び検討

Ｐ７　導入スケジュールイメージ（案）　→そのまま
Ｐ８　マンツーマンディフェンスの基準①　→そのまま(下記補足)

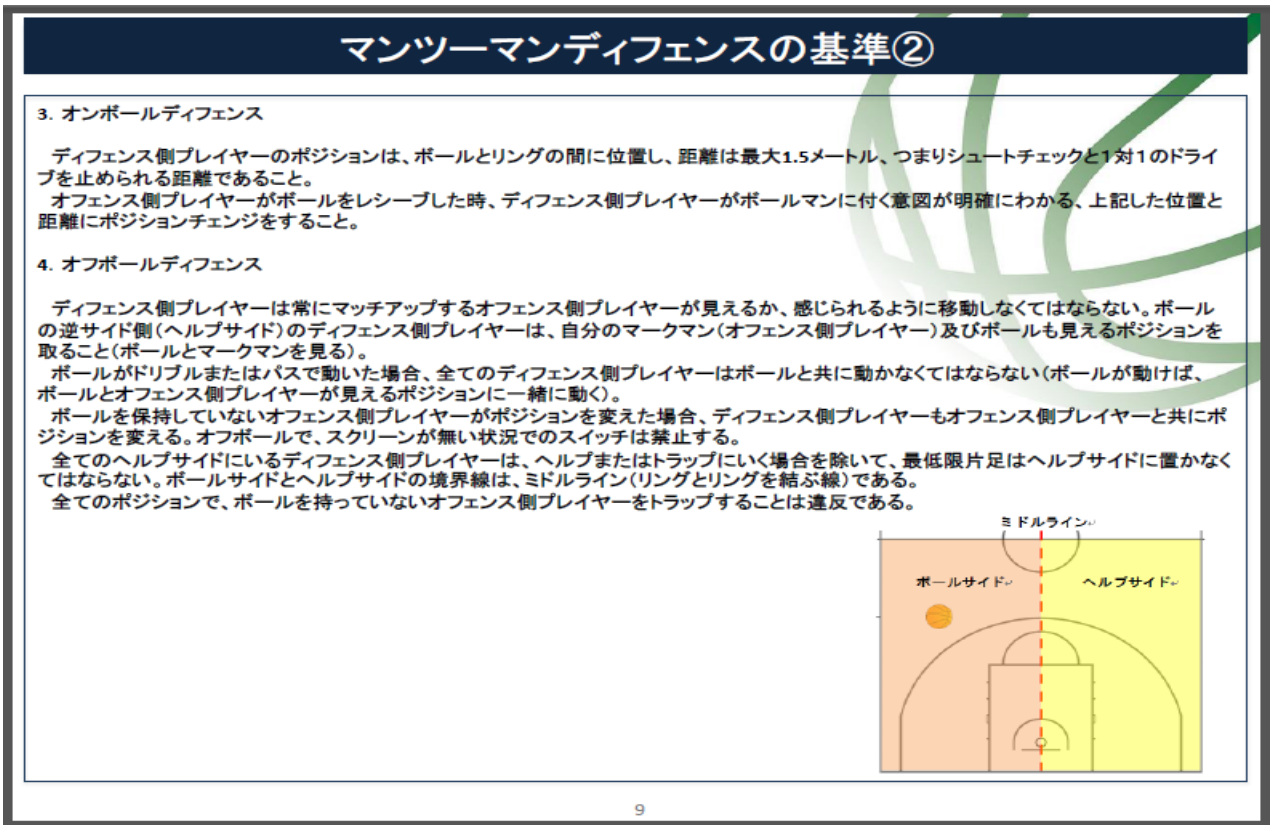
【JBA 資料】



＊下記補足は日本ミニバスケットボール連盟技術研修プリント

１．マッチアップ＆２．プレスディフェンス
・マンツーマンの意識がある。
（声・手・ポジション・感じる・アイサイン等）
・守るゴールのハーフコート内のスリーポイントエリア付近（マッチアップエリア）からはディフェンスをはじめている。オールコート・ハーフコート等ディフェンスをし始める場所は定めないが、チームとして統一のディフェンスであること。（一人は
エンドラインから残りはハーフからつく等はいけない。）

P９　　マンツーマンディフェンスの基準②　　→そのまま（下記補足）
【JBA 資料】

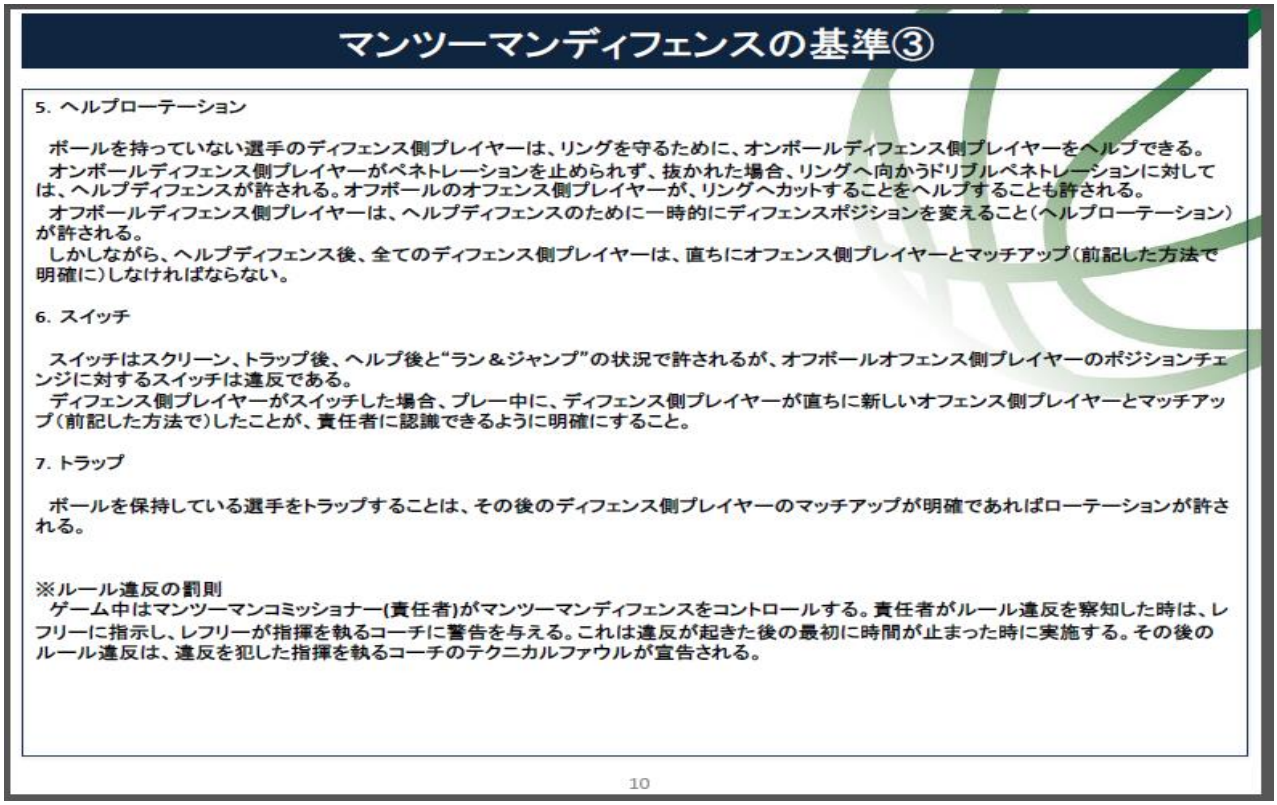


＊下記補足は日本ミニバスケットボール連盟技術研修プリント

３．オンボールディフェンス
・オンボールには１．５ｍ以内を目安としている。スローインに於けるフロントコート（オールコートディフェンス時等）においては、オフボールのプレーヤーに対してトラップしない限り、１．５ｍ以内は当てはまらない。
４．オフボールディフェンス
・ボールや相手と共に動いている。
・オフボールのポジションディフェンス（3 線）が、ミドルラインを完全にまたぎ越してはいけない。
・オフボールのプレイヤーに対しての数的優位な守り方をして

はいけない。
・オフボールのオフェンスのポジションチェンジは、対応しなくてはいけない。

P10　マンツーマンディフェンスの基準③　→そのまま（下記補足）



＊下記補足は日本ミニバスケットボール連盟技術研修プリント

５．ヘルプローテーション＆６．スイッチ
・スイッチ・ヘルプ・ローテーションは構わないが、その後はマッチアップをする。
・オフボールのオフェンスのポジションチェンジは、安易にスイッチをしてはいけない。

７．トラップ
・オンボールのダブルチーム（トラップ）は良いが、トラップが収束したら直ちにマッチアップをし始めている。

※ルール違反の罰則
マンツーマンチェック表等を有効に用い、明らかにゾーンディフェンスと判明した場合には、審判に合図をする。(旗を振る等)その直後の時計が止まっているときに、審判にその旨を伝え、審判は双方のコーチをＴＯ席前に招く。コミッショナーは、該当チームのコーチに内容説明をした後、審判が警告を与える。その間プレイヤーはベンチ付近に待機させる。(タイムアウトではないので)その後、必要ならば、コーチからプレイヤーに説明する時間を与え、ゲームを再開させる。
次の違反からは、ベンチのテクニカルファウルが適用される。

P11　マンツーマンディフェンスの基準④（映像）→１部削除・変更要請

１．「ヘルプサイドディフェンス」の「2線目のディフェンス」の「ルール違反」の部分の映像の削除

２．「ヘルプローテーション」の『明らかに抜かれた場合はヘルプできる』を『ヘルプの結果オンボールにトラップになっても構わない』に変更

P12　終わりに　→そのまま